

23 海岸の近くにいるときに地震が起きたら？ ―イメージトレーニング③

海岸の近くで地震にあったとき、どのような行動をとるとよいかを考えます。



津波への対処方法（まずは高いところに逃げることを）を学びます。



説明文【例】

時間軸

実施内容

対象人数★5～40人（1グループ5～6人）

1 導入（5分）

⇒映像11 ⇒写真6

説明文【例】

- 「海岸近くにいたとき、地震が起こりました。身を守るためどのように行動するとよいかを考えてみましょう。」
- イメージトレーニングに入る前に、映像11（津波関連）や写真6（津波関連）を見せます。
- 津波は通常の波とは異なり、海底が持ち上がったたり、沈みこんだりして発生し、壁のように押し寄せる大きな波であるということを説明します。



事前の説明

⇒資料23-1

2 イメージトレーニング（25分）

- まず、グループのリーダーを決めるよう指示します。
- 資料23-1をグループごとに配ります。
- 資料23-1の写真のうち、各グループに対して考える場面（写真）をひとつずつ指示します。
- 指示された場所にいるときに地震があった場合、どのような行動をとるべきかを、まず各自ふせん（メモ）に書き出させます。
- グループ内でそれぞれの行動を発表し合い、身を守る方法を模造紙に書き出してとりまとめさせます。
- リーダーに全員の前で、とりまとめた結果を発表させます。



写真を見て検討



グループ内で意見交換

⇒資料23-2

3 まとめ（10分）

- 指導者は、各グループの結果発表をふまえて、海岸近くで地震にあったとき身を守るための行動のポイントや留意点について、資料23-2を活用して説明します。
- さらにもう一度津波の映像を見せ、事前対策の大切さを説明します。



指導者によるまとめ



●● 指導ポイント

津波の第一波がどの程度の時間と高さとなるかわからないので、そのときの状況に合わせてとにかくまずは高いところに逃げることを大事であることを指導します。



●● 自主防災組織の関わり方

まとめのとき、過去の体験談などを語り、参加者のイメージを膨らませる役をお願いします。



●● 準備するもの（目安）

準備品	数	備考
☐ 映像「津波関連」	1	映像11
☐ 写真「津波関連」	1	写真6
☐ 資料「場面写真（津波）」	グループ数	資料23-1（配付用）
☐ 資料「海岸近くで地震にあったときの行動」	1	資料23-2（指導者用）
☐ ふせん（メモ）	参加者の数	
☐ 模造紙、油性ペン	グループ数	
☐ パソコン	1	必要に応じて準備
☐ プロジェクター	1	必要に応じて準備
☐ スクリーン	1	必要に応じて準備
☐ スピーカー	1	必要に応じて準備



●● 家庭への持ち帰り

- ここで学んだことを、保護者の方に話してもらうように指導してください。
- 地震・津波が起きたときの高台・避難ビルや避難路などがどこにあり、どのように逃げたらよいか、家族で確認するよう指導してください。



●● このメニューに関する+αの知識

地震の起こり方によっては、数分で第一波が到着することがあります。また、津波警報などの情報のみに頼るのではなく、地震が起きたらただちに避難することが大切です。



●● ひと工夫

- 小学校高学年の場合は、弟・妹など小さい子といっしょにいる場合についても考えさせましょう。
- DVDには、津波の写真のファイルが入っているので、それをカラー印刷して教材とすることができます。



●● 注意事項

津波を体験する機会自体が少ないので、正しいイメージを持つことは、極めて重要です。津波はどのような状況のもとで起こるかわからないので、今回のようなイメージトレーニングを繰り返す必要があります。油性ペンを使用する場合は、換気に気をつけてください。

場面写真（津波）



海岸沿いに住んでいる



海岸沿いを旅行している



海水浴をしている



釣りをしている



海岸から離れた川の水辺にいる

海岸の近くで地震にあったときの行動

海岸にいたときの対応

海岸で強い揺れに襲われたら、一番恐ろしいのは津波です。避難の指示や勧告を待つことなく、安全な高台や避難地を目指しましょう。

- 近くに高台がない場合は、3階建て以上の建物を目指し、3階より上に上がります。
- 津波は繰り返し襲って来て、第一波の後にさらに高い波が来ることもあります。いったん波が引いても、警報や避難勧告・指示が解除されるまで絶対に戻ってはいけません。
- 避難標識が整備されている場合には避難する際の目安になります。
- 海水浴中の場合は、監視員やライフセーバーがいる海水浴場では指示に従って避難しましょう。



津波注意標識の例

川のそばにいたときの対応

津波は、川を遡ります。

- 流れに沿って上流側へ避難しても津波は追いかけてきます。流れに対して直角方向に素早く避難します。



(出典) 消防庁：地震防災マニュアル（2007）をもとに作成